

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 7 月 15 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程 1 年
氏名	仲井理沙子

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
日本モンキーセンター
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物園・博物館実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 7 月 8 日 ~ 平成 29 年 7 月 10 日 (3 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
公益財団法人日本モンキーセンター 伊谷原一 (JMC 園長、WRC 教授)、大淵希郷 (JMC キュレーター、WRC 特定助教)
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
この実習の目的は、博士学芸員の仕事について学ぶとともに、霊長類及びワイルドライフサイエンスの環境教育の実践に触れることである。
日程 8 日午前: 園長によるレクチャー 8 日午後: 園内見学/標本実習 9 日午前: 教育・科学コミュニケーション実習 9 日午後: 飼育実習 10 日午前: エンリッチメント実習 10 日午後: 博物館学概論/獣医実習/JMC 研究活動紹介
1 日目 伊谷園長から、日本の霊長類学の始まりから、日本モンキーセンターの歴史・現在についてレクチャーして頂いた。宮崎における馬の研究の様子から、研究対象がニホンザルに変わった経緯を写真とともに教えていただき、面白かった。 園内見学では、小さいこどものいる種も見られ、その時々によって動物たちの異なる様子を経時的に見ることができるのは、生きている資料を展示している動物園ならではの感覚だと感じた。しかしこの日は気温 35 度を超える暑い日で、野外展示の多い動物園において天候の問題は厄介だと感じた。 標本実習では、骨格標本を実際に自分たちで手に取り見比べることで、年齢や性別によって個体差があることがよく理解できた。骨格標本から、その個体が生きていた頃の体の健康状態についても考察することができると分かった。一般的に、ニホンザルの下顎の左右に臼歯が 3 本ずつ存在するが、標本の中には、下顎左側に 4 番目の臼歯がある珍しい個体があり、印象的であった。
2 日目 教育・科学コミュニケーションのレクチャーでは、相手とのイメージ (コンテキスト) の共有が重要であると教わった。科学コミュニケーターは、答えを持って説明することが仕事ではなく、科学的な考えに基づいた意見を相手 (市民など) から引き出すことが重要であると分かった。私の研究分野は分子生物学で、専門外の人に説明することが特に難しい分野であると思われる。レクチャーを受けて、自分の研究について人に伝える際にどうすべきか考えるきっかけになったし、今後も考えていきたいと思う。レクチャーの後、実際に来園者調査の実習を行った。科学コミュニケーションの充実を図るためにも、来園者・市民のイメージを調査し、理解することが重要だと分かった。 飼育実習では、KIDZ ZOO を担当した。KIDZ ZOO は日本モンキーセンターの中では少し異質で、入場料金がかかり、接客的な側面が強いと伺った。KIDZ ZOO について一通り説明して頂き、ヤギの飼育場所を掃き掃除した。来園者が実際に動物と触れ合えるということもあり、動物と来園者両方の安全に特に注意が必要であると感じた。
3 日目
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先: <a href="mailto:report@wildlife-science.org">report@wildlife-science.org</a>

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

エンリッチメント実習では、KIDZ ZOOにおいて、ヤギのえさ場をよりよいものにする案を考えた。現在は大きな箱に餌を入れ、地面にしているため、ヤギがそのうえで用を足してしまうという衛生面の問題があった。また、来園者が落ちている草までヤギに与えようとするため安全上の問題や、食事をとることで運動にもなるようにしたいという課題もあった。よりよいえさ場を考えるにあたり、「安全・衛生・野生の暮らしに近づける」という点に注目するように教えて頂いた。限られたスペースと予算で実現できる現実性と、野生の暮らしに近づける工夫とを両立することは難しいと感じたが、考え・工夫することを続けることが大切だと思った。また、この実習中に雨が降ってきたため、動物を雨から避難させるお手伝いをさせて頂いた。さらに、獣医さんによる診察も観察させて頂いた。KIDZ ZOOにいる動物は小動物であるうえに、開放的な場所にいるため、カラスや雨など、動物の安全において配慮すべき点が多いと分かった。

獣医実習では、実際にワオキツネザルにおいて、麻酔、脚の怪我の治療、低周波電気刺激によるリハビリテーションの様子を見学させて頂いた。治療を行う際、動物は動いてしまうため、大手術でなくとも全身麻酔をする場合が多いと知り、拮抗薬があるような、安全で扱いやすい麻酔薬の開発が進んでほしいと思った。



シロテテナガザル（園内見学にて）



飼育実習においてキャプションを作成し、設置して頂いた



チンパンジー脳のアクリル標本



実際に使われている麻酔薬

### 6. その他（特記事項など）

本実習は PWS リーディング大学院プログラムの援助を受けて行われました。本実習に際し、ご指導くださいました日本モンキーセンターの職員の皆様をはじめ、お世話になりました皆様へ感謝申し上げます。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)